

平成 28 年度 岡崎市美術博物館収蔵品展

## 暮らしのうつりかわり

平成 29 年 2 月 1 日（水） — 3 月 26 日（日）

### 【展覧会概要】

美術博物館が所蔵する古い生活道具を中心に紹介する展覧会「暮らしのうつりかわり」の季節となりました。いつもは収蔵庫でガラクタと揶揄され肩身の狭い思いをしている、働き終えた道具たちの年に一度の晴れ舞台であります。

かつて身近にあった伝統的な生活道具は、便利で快適な生活とひきかえに、古くさく不便なものとして影をひそめ、私たちのまわりから姿を消していきました。今では全く見かけない道具もあり、素材や形が大きく変わったものもあります。会場にある道具たちは、いずれも長い間大切に使われてきたモノたちで、多くの方々から岡崎市へ寄贈していただいたものばかりです。このような身近な暮らしを伝える郷土の資料を岡崎市の財産とし、公開して後世へ伝えることも目的とした展覧会でもあります。

むかしの道具には、人びとが長い年月をかけて築き上げ、受け継がれてきた生活の知恵と工夫がいっぱい詰まっています。古い道具からこうしたことを感じ取り、今の私たちの暮らしを振り返ってみましょう。また、本展では明治から昭和時代にかけての生活道具のほかに、教科書をはじめとする小学校の道具、子どもの成長や幸せを願った雛人形や土人形なども展示します。

そして、公立小学校 3 年生が、むかしの道具や生活について調べる社会科学習の支援を兼ねています。子どもたちにはむかしの道具の実物を間近に見てもらい、むかしの人たちが道具を大切に使ってきたということを感じてもらいたい、そして、道具の観察を通してむかしの暮らしの様子を探り、今の自分たちの暮らしを考える手助けになればと思います。

会場ではみなさんの家にもあった懐かしい道具が、きっと見つかることと思います。若い世代や子どもたちには新鮮な驚きと発見があることでしょう。

## 【開催要項】

---

- 名 称 平成 28 年度収蔵品展「暮らしのうつりかわり」
- 会 期 平成 29 年 2 月 1 日（水）～ 3 月 26 日（日） 47 日間
- 主 催 岡崎市美術博物館
- 開館時間 午前 10 時～午後 5 時（入場は午後 4 時 30 分まで）
- 休 館 日 毎週月曜日（ただし 3 月 20 日(月・祝)は開館、翌 21 日(火)は休館）
- 観 覧 料 一般 300 円／小・中学生 150 円  
展覧会限定フリーパス「Limi - pass(リミパス)」は 400 円  
\* 未就学児は無料  
\* 岡崎市内の小中学生は無料（わくわくカードまたは生徒手帳を提示）  
\* 各種障がい者手帳の交付を受けている方及びその介助者は無料（各種手帳を提示）
- 会 場 岡崎市美術博物館 [マインドスケープ・ミュージアム]  
愛知県岡崎市高隆寺町峠 1 番地 岡崎中央総合公園内  
TEL 0564-28-5000 / FAX 0564-28-5005  
<http://www.city.okazaki.lg.jp/museum/index.html>
- 交通案内 自家用車／東名高速道路「岡崎インター」から約 10 分  
タクシー／名鉄東岡崎駅から約 15 分、JR 岡崎駅東口から約 25 分  
バス／名鉄東岡崎駅北口バスのりば②番から「中央総合公園」行き乗車、「美術博物館」下車、徒歩 3 分  
※土日祝はバスのりば①番「中央総合公園」行きの「岡崎エクスプレス」（拠点快速バス）も御利用いただけます。
- 関連イベント ○ 子どもわくわく！教室（小学生対象）  
むかしの生活や道具について、ワークシートをやりながら調べてみましょう。  
学芸員の楽しいお話も聞けるよ。ホンモノの道具にもさわれるよ。  
日 時／2 月 4 日(土)、2 月 11 日(土・祝)、2 月 18 日(土)、2 月 25 日(土)、  
3 月 4 日(土) 各日とも午前 10 時 30 分から
- 展示説明会  
むかしの道具の見どころなどを学芸員が解説します。あなたの暮らしの思い出も聞かせて下さい。  
日 時／2 月 18 日(土)、3 月 12 日(日) 各日とも午後 2 時から  
\* 両イベントともに当日自由参加、参加費無料(ただし観覧チケットが必要です。)

※ 学習支援展示を兼ねていますので、平日は学校団体見学があります。

## 【展示構成】

---

### ◇ 暮らしの道具

昭和 30 年代から一般家庭に出回ってきた電化製品は、スイッチひとつで動くとても便利な機械で、それまでの生活を大きく変えるものでした。こうした生活スタイルの変化や技術の進歩に伴って、伝統的な生活道具は姿を消していき、私たちは快適で便利な生活を享受して毎日を生きています。ここでは、かつて暮らしを支えてきた道具を紹介します。ひとつひとつの道具からは、使っていた人の気持ちが伝わってくるとともに、その道具の歴史や文化としての奥深さも感じられます。生活道具がいかに姿を変え、私たちの暮らしがどれほど便利になったのかを振り返ってみませんか。

〔主な展示資料〕

足踏みミシン、炭火アイロン、蛇の目傘、ちゃぶ台、氷冷蔵庫、<sup>はいちよう</sup> 蠅帳、電気炊飯器、<sup>めしびつ</sup> 飯櫃、箱膳、<sup>たらい</sup> 盥と洗濯板、階段箆筒、火鉢、白黒テレビ、柱時計、黒電話など

### ◇ 小学校の道具

日本の近代学校制度は、明治 5 年(1872)に制定施行された学制とともに始まりました。その時から日本中に小学校がつくられ、子どもたちは教科書を使って勉強してきました。ここでは明治から昭和戦前にかけての小学校教科書を中心に、学校で使われた道具類などを展示します。子どもたちにとって小学校は現在進行中であり、生活とは切っても切れない関係にあります。誰もが体験している学校生活を語り合いながら、楽しくご覧いただければと思います。

〔主な展示資料〕

小学校掛図・教科書（国語・算数・理科・社会・修身・音楽・図工）、給食用具、オルガン、筆箱、算盤、運動足袋など

### ◇ ひなまつり

3 月 3 日の桃の節句には、雛人形を飾って女の子の健やかな成長と幸せを祈ります。この年中行事は今でも全国各地で行われていますが、住宅環境の変化などにより大きく様変わりしています。ここでは桃の節句に合わせておひなさまと、素朴な愛らしさの土人形を中心にご覧いただきます。子どもの誕生を祝い、その成長を見守ってきたお人形たちをお楽しみください。

〔主な展示資料〕

御殿飾り、屏風段飾り、土人形〔大浜土人形、伏見土人形、古博多土人形、佐土原土人形など〕

---

## 【問い合わせ先】

岡崎市美術博物館 広報担当：浦野加穂子・畔柳睦子 / 展覧会担当：伊藤久美子

〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町峠 1 岡崎中央総合公園内

TEL 0564-28-5004 / FAX 0564-28-5005

E-mail : bihaku-kikaku@city.okazaki.lg.jp

【参考画像】



昭和30年代の茶の間風景  
(平成27年度展覧会の様子)



初等科習字掛図 第三学年用  
昭和17年



尋常小学国語読本 卷一  
大正7年



給食用ミルク缶・食缶



御殿飾り 昭和6年



土雛 昭和33年